



日本スーパーマーケット協会

平成26年2月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	48,395,849 万円	100.0%	105.0% (102.5%)	45,462,244 万円	102.4% (100.1%)
食 料 品	40,269,321 万円	83.2% (82.7%)	105.6% (103.1%)	38,652,150 万円	102.7% (100.2%)
農 産	6,109,882 万円	12.6% (12.7%)	106.8% (104.5%)	5,899,224 万円	104.1% (101.7%)
水 産	3,891,150 万円	8.0% (8.9%)	104.0% (102.7%)	3,734,850 万円	101.2% (99.6%)
畜 産	4,928,716 万円	10.2% (10.1%)	112.0% (108.0%)	4,746,364 万円	108.8% (105.0%)
惣 菜	4,141,934 万円	8.6% (8.8%)	104.8% (104.3%)	3,947,328 万円	101.6% (100.7%)
日配食品	8,910,767 万円	18.4% (18.1%)	106.3% (103.1%)	8,545,287 万円	103.5% (100.5%)
加工食品	12,286,872 万円	25.4% (24.1%)	102.9% (100.0%)	11,779,097 万円	100.2% (97.4%)
生活関連	4,199,148 万円	8.7% (6.9%)	104.4% (100.3%)	3,020,735 万円	102.3% (99.2%)
衣 料 品	1,329,791 万円	2.7% (3.7%)	99.2% (97.0%)	1,298,728 万円	99.1% (97.2%)
そ の 他	2,597,589 万円	5.4% (6.7%)	100.1% (101.2%)	2,490,631 万円	99.7% (100.8%)

② 数 値

全店総売上高	48,395,849 万円	店 舗 数	4,468 店舗
総売場面積	8,668,013.4 m ²	総従業員数	221,707 人

店舗平均月商	10,831.7 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,874 円 (102.9%)
月間m ² 売上(前月)	5.6 万円 (5.8 万円)	平均店舗面積	1,940.0 m ²
月間坪売上(前月)	18.5 万円 (19.3 万円)	パート比率(前月)	77.0% (77.6%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 上旬から中旬にかけて気温が低く推移したため、鍋商材の動きが良かった。また、マスクやカイロの動向も良く、全体では既存店前年比5カ月連続、食品既存店前年比9カ月連続で超過した
- ・ 大雪の影響で、降雪日前後の売上が大きく伸びた
- ・ 消費税増税をにらみ、衣料用洗剤、紙製品、おむつなどの日用雑貨や飲料、米、菓子など比較的保存可能な商品の動きが良く、駆け込み需要の影響があった

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 鍋商材の動向が良く、特にきのこ類、白菜、長ネギが好調に推移した。また、サラダ商材として、キャベツ、ブロッコリー、アスパラなどの動向が良く、既存店前年比8カ月連続で超過した
- ・ 中旬の大雪の影響で、葉物類の入荷が出来ず昨年を下回った
- ・ 果実では、バナナが品薄のため売上に影響したものの、柑橘類、いちご、りんごの動向が良くカバーした

○ 水産

- ・ 月間を通して気温が低く、鍋商材のたらが大幅に伸長したこともあり、既存店前年比2カ月振りに超過した
- ・ 養殖ブリは相場高の影響で売上は苦戦したが、天然ブリは好調に推移し養殖ブリをカバーした
- ・ カキは雪の影響で一時入荷が途絶えたが、月を通して品質も良く好調に推移した

○ 畜産

- ・ 牛肉（うす切り、切り落とし）を中心として鍋材料の動きが良く、12カ月連続既存店前年比を超過した
- ・ 降雪の影響で、前後は豚・鶏肉の動向が良かった。また、加工肉ではハム・ベーコンを中心に買い置きの需要が見られた

○ 惣菜

- ・ 気温の影響で、おでん、もつ煮、グラタンの動きが良く、5カ月連続既存店前年比を超過した
- ・ 米飯の動きが良かった。また、季節品のたらの芽天ぷらを中心として、天ぷら類の動向が良かった

○ 日配・加工食品

- ・鍋関連（おでん、つみれ、豆腐、麺など）が好調に推移した。また、つゆ、白だし、みりん、料理酒など関連品の動きも好調に推移し、日配食品は、5カ月連続で既存店前年比を超過し、加工食品は、8カ月ぶりに既存店前年比を超過した
- ・1月は不調だった冷凍食品は、大雪の影響で、降雪前の動向が良かった。また、インスタント麺、レトルトご飯、缶詰、スナック菓子の動向が良くなった
- ・1月に引き続き、機能性ヨーグルトおよび乳酸菌飲料の動きが好調だった

○ 「節分、バレンタイン」について

- ・恵方巻きは、予約販売、当日の販売と年々需要が上がっている。太巻き、中巻きのハーフが好調に推移した
- ・節分当日が月曜日ということで、前週末の動向が良かった。関連品では、いわし丸干し、のり、酢の動向は良かったが、節分豆、ひいらぎ、節分そばは年々動向が鈍くなっている
- ・本命チョコからファミリーチョコ、友チョコ（デコチョコ）の定着化により、手作り、半手作りの動向が良かった

○ 「受験、風邪・花粉対策」について

- ・菓子類の合格祈願パッケージは好調に推移した
- ・夜食対応として、コーヒー、紅茶、ココア、ホットケーキなどが伸長した
- ・機能性ヨーグルトが引き続き好調に推移している
- ・マスク、のど飴の動向が良かった

○ 「大雪の影響」について

- ・高速道路の通行止めなど、交通状況の麻痺により大幅な納品遅れや未納品の商品があった。そのため、定番商品の動向も良くなった
- ・降雪前の「買い置き」ニーズで、即席食品や調味料などを中心として特需が見られた。また、降雪後のお客様の来店状況も良かった

以上